

# 平成19年(第2回) 3月議会定例会



平成19年3月議会定例会は、3月6日から19日の日程で開かれました。

一般質問は8・9日に行われ、4人の議員が村政の重要な課題等について村側の考えを質しました。また、平成19年度の各会計に係る予算審査特別委員会は、12・14・15日の3日間にわたり行われました。

議案審議は19日に行われ、提出された28議案は全て原案通り可決されました。

## 19年度 村長所信表明

(紙面の都合で内容は一部省略してあります)

飯館村として自立していく道を選択し、その指標として一昨年12月に、自立計画「新たな出発プラン」を策定しました。したがって、18年度は村にとって正真正銘の自立スタートの年との強い思いで村政を運営してきました。その中で、昨年9月には村の誕生50周年を迎えました。私は、この記念すべき日を単なる記念行事ではなく、村の50周年を省み、さらに100年に向けた新たなスタートとしての意思を確認し合う日にとの思いで、村民の各界

各層と「立村50周年記念祭」を実施しました。



▲村民2,500人が参加した立村50周年記念祭

その結果、村の将来を担う子どもたち、村を支える青・壮年、村をつくり上げてきた高齢者が一体となり、村の誕生50周年を祝い合

うことができました。この村民が一体となった取り組みは、村内外から高い評価を受けたところですが、これからの「協働の村づくり」の一つの原形になるものと思われま

私は、村の100年に向け、村民が英知を結集し汗して50年間営々と築き上げてきたこの村の歴史を大切に守り、そして今まで以上に村民との協働で村民主体の村政運営に努め、将来村民の皆さんから「飯館村で自立したことがよかった」と納得していただけるよう、日夜村民福祉の向上と村勢進展に精進したいと考えています。

私は折りに触れ、流れは高度経済成長時代の「物質的な豊かさ」のみを求める時代から、成熟社会に入り「心の豊かさ」も重視しなければならぬ方向に確実に変化していることを申し上げてきました。

日本は終戦後、荒廃した国の復興のため、国民あげ

## までいブランド

農業の高次元化として、昨年「までい」の商標登録を行い、現在関係機関と「までいブランド」の基準づくりを進めています。この基準に基づき、農産物をはじめ特産品を差別化し、までいブランドの確立と所得向上に結びつけるよう努めます。併せて、減農薬・減化学肥料などによるエコファーマー、特別栽培、有機栽培への移行を積極的に進め、有機循環型農業による消費者の求める安全・安心な食糧生産を目指します。



▲商標登録した「までいマーク」

## 野菜・花卉の振興

村の地理的・気象的条件を生かしたインゲン、ホウレン草、ブロッコリー、ト

て先進国に追いつけ、追いつけと寝食をいとわず頑張

り、今や世界をリードする

国家になりました。

反面、経済成長を性急に追い求めた結果、家族制度や地域コミュニティの崩壊など、大切なものを失ってきています。毎日のように考えられないような無残な事故、事件が報じられています。特に、一番強い絆で結ばれているはずの家庭や家族の中で信じられない悲惨な事件の報道には、心が凍てつく思いです。このような社会現象の一因は、今まで進んできた経済優先の社会と無縁とは言えないのではないのでしょうか。

つまり「物質的な豊かさ」を重視するあまり、人の心の大切さ、人と人との心のつながり、家族の大切さ、物を大切にする心といった「心の豊かさ」が、ややもすると忘れられ、軽視されてきた生き方や生活スタイルに、根本的な要因があると思うのです。

本村は、経済活動では不利な条件ですが、昨年の「50周年記念祭」で実証された他に誇れる人的資源と、豊かな自然空間があり

ます。この豊かな人的、自然的資源を生かし、共に知恵を出し合い、共に汗をかきながら、「までいライフ」を基本理念とした第5次総合振興計画を推進することで、心豊かで誇りを持つて住める村づくりができるものと信じています。

私はこうした基本認識に立ち、100年に向けた新たなスタートとなる19年度の村政運営に取り組んでいきたいと考えています。

## 《主要施策》

村は自立と決定したことにより厳しい道ですが、飯館流「までいライフ」を基本理念に、住民との協働で自信と誇りの持てる地域づくりに取り組んでいきたいと考えています。

このことを念頭に、19年度の予算編成の基本方針と

して、産業の振興、所得向上、雇用対策、行財政改革は本村の普遍の課題であり、常にそれぞれ関係各課に指示をしているところで

す。この普遍の課題を最大の柱に据えながら、その他に次の5点を基本方針として予算を編成しました。

- ①少子化対策
- ②学力向上と人材育成
- ③健康づくり
- ④あらゆる分野での環境対策
- ⑤村民との協働の推進

これらについては、ハード事業と異なり、すぐに形として成果が見えませんが、継続的な事業の組み立ての中で工夫を重ね、成果を求めていきます。特に村民との協働については、事業の組み立ての中に村民にどう関わってもらう工夫をするかがポイントですので、そのことを考えながら政策を進めたいと考えています。

## 行政機構

19年度からの行政機構に



ルコギキョウ、リンドウなどは、市場で高い評価を得ています。19年度もパイプハウス等の資材をはじめ、連作障害対策としての暗渠・客土、さらには産地づくり交付金などによる支援を引き続き行い、関係機関と連携し、産地化を図っていきます。

## 第2期中山間地域等 直接支払

今年で3年目を迎え、当初計画の事業評価の年になっています。それぞれの行政区で計画通りの事業を展開し、補助金返還等にならないよう、適正な事業の推進を指導していきます。

## 畜産関係

「飯館牛銘柄確立検討委員会」からの提言もあり、次の通り事業を展開していきます。

まず優良雌牛の導入についてですが、昨年、国による高齢者貸付牛及び農協牛の導入事業が廃止されまし

たので、その補完をするため村の家畜導入基金協会に1000万円を出資し、20頭の貸付枠を設けます。

また、優良雌牛自家保留事業を継続し、30頭の補助枠の確保を図ります。

畜産技術センターの受精卵移植事業は、従来の事業を見直し、一般採卵を行わないこととし、いわゆる産子能力に優れた高能力牛に限った事業の展開を図り、銘柄の確立と当センターの維持管理経費の節減に努めます。

「育種価」については全国的に進められていますが、残念ながら本村では取り組みが大変遅れており、早急な対策が求められています。具体的には、育種価を判

明させるため村の振興公社に村内の優良仔牛を20頭導入し、肥育技術と産肉のデータを畜産農家に提供するものです。この積み重ねによって、飯館牛の銘柄がさらに具体的に確立されると期待しています。

## 林業関係

前年度に引き続き、森林環境税を活用した森林環境交付金事業により、「あいの沢」周辺の整備を計画しています。

## 有害鳥獣捕獲対策

年々、猿や猪による農作物への被害が拡大しており、効果のあがる対策が強く求められていますので、今年度は、猪による被害防止対策として、電気牧柵の設置補助を予算計上しました。

また、猟友会の支援をいただきながら、捕獲隊の人員と捕獲行動日数を増やすための予算を増額し、農作物への被害を最小限に抑えるよう努めます。

## 商工業関係

雇用拡大に向け、企業立地支援条例に基づき、村内の既存企業育成と新たな企業についても引き続き関係機関と連携しながら誘致を図るとともに、工場用地つ

いても適地の確保に努めていきます。

また、引き続き各種制度資金の融資をはじめ、融資資金の利子補給などにより、商工業者の経営安定に努めていきます。

## 産直施設

今年秋のオープンに向け管理運営方針や各組織に参画する方の公募や調整など、準備を進めています。

当施設は村の情報発信、観光交流の拠点施設として村民の期待も大きなものがあり、特に多くの方に足を運んでもらえる施設を目指し、関係者一丸となって取り組んでいきます。

## まदैライフ推進事業

この事業は原子力等立地地域振興支援事業を活用して、3カ年間の継続事業で「まदै」の考え方を内外に広める事業にしたいと考えています。

今年度は9月に本村で「日本再発見塾」を開催するこ

ととしています。この塾は、全国から一般参加者を募り、各界で活躍する著名人や村内の達人などを講師に迎え、「まदैライフ」をテーマに全国に発信しようとするものです。なお、具体的な企画内容は、今後関係者と協議をしながら検討していきます。

## うつくしま宝自慢

昨年に引き続き、県観光連盟の補助を得ながら、民家園を利用した「茅葺きコンサート」を実施することになっています。



▲沖縄音楽を楽しんだ昨年の茅葺きコンサート

また、昨年は旅行者による観光モニターツアーを実施し、都会から多くの旅

行者が本村を訪れ、田舎体験や地元特産品・食に触れ、本村のPRに大いに寄与できたと考えています。今年も引き続き、当交流事業による村のPRと活性化に努めていきます。

## 少子化対策

村の次世代を担う子どもたちの健全な育成を図るため、18年度に「までい子育てクーポン事業」を立ち上げ、要綱で実施してきましたが、今議会に条例を提案し、問題点を整理しながら継続して子育ての支援をしていきます。

## 妊婦健診助成

18年度に、健診料の助成を10回までに拡大しましたが、この周知と指導の強化により、妊婦健診の負担軽減と母子健康の向上を図っていきたいと考えています。

## 保育所の充実

毎年施設を改造し、定員の増加を図ってきましたが、

19年度も施設の修繕を行い、ゆとりのある中で保育ができるように環境の整備を図ります。

## 預かり・学童保育

年々利用者が増えており、18年度に空き教室を改修して受け入れの拡大をしましたが、それでも待機者が多く出ていることから、19年度には新たに飯樋小学校にも開設します。

また、19年度から各自治体独自の子育て支援事業に対する県の補助について、その内容を十分検討して対応し、少しでも子育て支援のできる体制をとっていくつもりです。

## 児童手当法の改正

18年度に児童手当支給の対象が小学校修了までに改正されましたが、19年度は3歳児までの支給額が5000円から1万円に改正されます。この子育て支援の改正が少子化対策につながることを期待しています。

## 健康づくり

年々高齢化が進み、老人医療費が増えていく中で、村民の健康づくりをこれまでも進めてきましたが、19年度は、さらに村民の健康づくりを大きな柱ととらえ、これまでの各種保健事業に、食に対する改善・推進を加えていききたいと考えており、20行政区の懇談会や子どもたちに食の重要性を広げていきたいと考えています。

## 総合健康診査

18年度には、検査項目に50歳以上の男性を対象に前立腺がん検診を追加しましたが、多くのの方の早期発見と早期治療につながったようです。なお、健診を受けてもらうだけではなく、健診結果から精密検査の必要な方や何らかの異常のある方に対しては、個人毎に保健師の家庭訪問を実施し、適切な指導をして早期の医療機関での受診につなげることを強化し、医療費の抑

制につなげたいと考えています。

## 福祉関係

福祉関係は毎年制度改正があり、それが各自治体に義務付けされるもので、その対応に苦慮していますが、適切な対応をしています。

また、18年度に介護保険法の改正に伴い、新たに地域包括支援センターを設置し、運営を「いたて福祉会」に委託していますが、これを十分に機能が果たせるようにしていかなければと考えています。

## 環境対策

経済成長優先の大量生産、大量消費の生活から資源循環を基本とした循環型社会の構築が求められています。

村では、婦人会、老人会等各種団体の協力をいただきながらゴミの分別・資源化を進めています。残念ながらまだまだ村民の十分な理解が得られていませんので、19年度も生ゴミの堆肥化と、



▲工事が進む深谷飯樋線(3月中旬)

分別の推進による減量化を根気強く継続的に取り組んでいきます。

また、学校と連携し、学校給食の牛乳紙パックの資源回収を推進していきます。

## 生活の基盤整備

道路は、村民の日常生活から社会経済活動まで、あらゆる面を支える最も基本的な社会資本であり、引き続き村道・農林道の整備を図っていきます。

村が予定している19年度の村道整備は、深谷飯樋線、大火比曾線の改良、松塚モミの木線の局部改良等です。



また、村内外に通じる国・県道の整備についても、積極的に関係機関へ要請していきます。

19年度県営事業の整備計画ですが、県代行事業として、村道佐須大倉線、ふるさと農道緊急整備事業飯館地区（芦原）、過疎基幹農道前田地区、農免農道野手神地区、林道開設事業桁窪大倉線など5路線が予定されています。

農道では、大森地区の事業採択に向けた事業実施計画の策定を進めます。

## 主要道路整備

県道原町二本松線の蔵平地内については、18年度は200メートルほど現道改良が実施されましたが、19年度も引き続き工事を進めていただけのものと思っています。

## 学校・社会教育

昨年、教育の憲法とも言われる「教育基本法」の改正を契機に、教育再生会議での議論等教育に関わる論

## ジュニアリーダー

中・高校生対象で様々なボランティア運動を組織的に推進する「ジュニアリーダー育成事業」についても、社会人となった時に役立つような研修的メニューでボランティア活動を推進し、将来的には村の指導的立場に立てるような人材育成に資する事業として継続していきます。

## いいたて学次世代塾

村の次世代を担う人材育成を目指した、「いいたて学次世代塾」を開設します。個々の資格で自由な発想で、研修や議論に加わっていただき、明日の村づくりを担う村民の育成を目指すものです。

## 男女共同参画推進

男女がただ補い合う関係ではなく、お互いに人間として高め合うため、家庭や地域、社会、団体等での男女の役割はどうあるべきか

議は国全体の大きな関心事となっています。特に、基礎学力の低下、いじめや自殺、不登校児童生徒への対応、さらには教育委員会制度のあり方など本村の教育行政を進めていく上でも、国の動向が注目される年になると思われますので、議論を注視しながら、村としての教育行政のあり方を検討しつつ、対応をしていきたいと考えています。

今、家庭の教育力の低下が問題になっています。村の子どもたちにも「就寝時間の乱れ」、「朝ごはんを食べないで登校する子ども」が多数いることが報告されていますし、全国的にも大きな問題となっていることから、「早ね、早おき、朝ごはん運動」を推進することとし、今議会で「早ね、早おき、朝ごはん運動推進の村」宣言の採択をお願いします。規律正しい生活をすることは、子どもたちの健康管理はもちろん、集中力や考える力を育てることに

の視点で、事業の組み立てを考えていきます。

## ピンポン大会



▲村独自のルールで行うピンポン大会

お互いの立場を思いやる心を培う「思いやり・まていラリー・ピンポン大会」を今年も実施し、競技として勝負にこだわるのではなく、相手やパートナーへの思いやりを大事にするゲームとして、地域に広めていきたいと思っています。

## 社会体育

村民が健康な毎日を送っていたかどうか、多くの村民が手軽にできる運動を推進するため、いきいきクラブを核とした体育協会等の

もなりますし、問題行動発生の抑止策、学力向上にも大きく貢献することでもありますので、家庭の教育力向上に向けて村民あげて運動を進めていきます。

## 学力向上

基礎学力向上を目指し、引き続き30人程度学級制による少人数指導を進めることとし、偏差値アップの目標値を提示しながら具体的な実践計画を示すよう、学校長に強く求めていくつもりです。

また、村として学力向上を推進するため、独自で学力向上アドバイザーを設置するほか、算数・国語に特化したプロジェクトチームを設置し、分かる授業・学ぶ意欲を引き出す授業のあり方を研究して基礎学力の向上に努めていきますし、幼・小・中・高一貫した教育が進められるよう、合同の授業研究などにも積極的に取り組んでいきます。

学力向上は学校のみを取

り組みでは達成できません。当然、保護者・家庭の協力が欠かせませんので、PTAの会合や公民館の講座等の機会を捉えて啓発に努めていきます。

また一方では、いじめや不登校についても引き続き先生、生徒、保護者の相談に答えていただくスクールカウンセラーを配置するほか、教職員に対し校内での巡視活動の日常化や、子どもたちとの積極的な関わりを持つこと、保護者と情報を共有化し学校と保護者が一体となって、いじめ根絶に努めていきます。

2年目を迎える生徒指導総合連携事業についても、子どもの夢を育てるため、より多くの皆さんに関わっていただくよう取り組んでいきます。

また、土曜日に子どもを地域で見守る一つの方策として「いいたてまでいスクール」の複数地区での開催を進めていきます。なお、主役は子どもですから、その

団体と連携を図り、各種教室や講習会、大会などを実施していきたいと考えています。

## 財政運営

国の19年度予算案は、一般会計総額が82兆9088億円で、前年度比3兆222億8千万円（4％）の増となる見通しです。

歳入では景気回復等を反映し、税収は過去最大となる前年度比7兆5890億円（16・5％）増となったものの、依然25兆4320億円、率にして30・7％を国債に依存しています。

市町村の財政運営の指標となる19年度地方財政計画の規模は83兆1300億円程度であり、6年連続の減となつていきます。これは、人件費及び投資的経費、一般行政経費等を厳しく抑制する国の方針に基づき、地方財政計画との決算乖離の見直しなどによるものです。一般財源総額は、59兆2300億円程度で、前年度

子どもたちが全て受動的な行動の中でのみの学習ばかりではなく、自ら行動をおこすことによって、少しでも生きる力の養成を図りたいとのことで、中学生が自ら実施する事業も取り入れたところではあります。

## 海洋アドベンチャースクール

終期を設定しての事業実施でしたが、村民や保護者から、子どもたちの感動教育に非常に意義のある事業では是非継続して欲しいとの強い要望があり、本年も6年生児童の心に残る感動事業として実施したいと思っています。



▲6年生70人が参加した昨年のアドベンチャースクール

算定に大きく影響する単位費用の予測がつかないため、18年度の数値を使っていますので、この単位費用がどう変わるか、また、人口と面積で算定される新型交付税、本来交付されるべき交付税の枠の中で算定される頑張る地方応援プログラム等がどう影響するか心配しているところです。

このように、これからも厳しくなる財政状況に対応するため、16年度以降、財政調整基金の取り崩しの抑制に努めており、17年度末時点で8億4000万円、18年度末時点で8億円台を確保すべく鋭意努力をしているところです。

19年度予算編成では、厳しく事業の精査をし、財源の効率的かつ重点的な配分に努めたところですが、今後の事業の実施においても内容や手法の工夫や見直し、経常経費の節減合理化を徹底し、厳しさを増す財政に備えていきたいと考えています。



## 今議会でも可決された議案等の概要

（紙面の都合で内容は一部省略してあります）

### 平成18年度 一般会計補正予算

予算額を6041万4000円減額する整理です。ただ、飯樋小での新たな学童・預かり保育の開所、臼石小の特殊学級の開設など来年度に備えた改修及び備品購入等の経費、急を要する学校施設の修繕、公共施設用地の土地開発基金からの買戻し1億3781万5000円などは増額補正となつています

### 平成18年度 国民健康保険特別会計 補正予算

### 平成18年度 診療所特別会計 補正予算

### 平成18年度 簡易水道事業特別会計 補正予算

### 平成18年度 農業集落排水事業特別 会計補正予算

### 平成18年度 介護保険特別会計 補正予算

これらは、各特別会計の年度末整理予算です。そのうち、国民健康保険特別会計補正予算の中で、保健給付費1141万円を増額補正しています。

### 平成19年度 一般会計予算

歳入歳出予算の総額を、それぞれ35億7900万円としました。

これは、前年度に比べ8100万円、率にして2・3%の増です。性質別に増減額の要因を昨年度当初予算と比較しますと、公債費が8187万4000円（14・5%）増、

なっています。

繰入金ですが、2億8177万7000円で、前年度比7573万4000円（36・8%）の増です。

これは、財政調整基金繰入金を昨年より5000万円、減債基金1295万2000円、楽園基金・高齢者牝牛貸付基金・緑化基金で1405万3000円の増、さわやか基金等が127万1000円の減が主な要因です。

村債は、2億8150万円、前年度比2440万円（8%）の減です。

これは、過疎債が3170万円及び臨時財源対策債200万円の減、辺地債500万円及び災害復旧事業債430万円の増によるものです。

歳入に占める自主財源と依存財源の割合は、自主財源が9億5732万3000円で26・8%、依存財源は26億2167万7000円で全体の73・2%です。性質別歳出では、構成比

のトップは人件費が7億1467万6000円で20%、次いで公債費が6億4690万3000円で18・1%、物件費が5億6656万円で15・8%、補助費等が4億5360万1000円で12・7%、繰出金が4億4784万5000円で12・5%、普通建設事業費が4億730万8000円で11・4%の順です。地方債の19年度末現在高見込額は、本年度の借入れ及び償還見込みを含めて47億9867万9000円となっており、18年度末見込額より2億8529万円の減となる見込みです。

### 平成19年度 国民健康保険特別会計 予算

事業勘定では、歳入歳出総額をそれぞれ9億700万円としました。

これは、前年度に比べ1億2471万5000円（15・9%）の増であり、共同事業拠出金が大幅に増と

なったことなどによるものです。

診療施設勘定では、歳入歳出総額をそれぞれ9776万4000円としました。これは、前年度に比べ76万1000円（0・8%）の減です。

### 平成19年度 診療所特別会計予算

歳入歳出予算の総額をそれぞれ9221万6000円としました。

これは、前年度に比べ564万3000円（5・8%）の減です。

### 平成19年度 簡易水道事業特別会計 予算

歳入歳出予算の総額をそれぞれ1億7748万2000円としました。

これは、前年度に比べ312万7000円（1・8%）の増です。当会計の地方債の19年度末現在高見込額は、13億7256万5000円で、18

年度末見込額より1億225万1000円減となる見込みです。

### 平成19年度 老人保健特別会計予算

歳入歳出予算の総額を7億2730万7000円としました。

これは、前年度に比べ2889万4000円（3・8%）の減です。

### 平成19年度 農業集落排水事業特別 会計予算

歳入歳出予算の総額をそれぞれ7029万5000円としました。

これは、前年度に比べ706万8000円（9・1%）の減となっています。

### 平成19年度 介護保険特別会計予算

歳入歳出予算の総額をそれぞれ4億6206万5000円としました。

これは、前年度に比べ、526万3000円（1・

1%）の減となっています。

### 飯舘村長期継続契約に 関する条例

地方自治法施行令第167条の17の規定に基づき、毎年度更新を繰り返すより、長期にわたって契約を結ぶ方が合理的であるものについて、長期にわたる契約ができるようにするための条例制定です。

### までい子育てクーポン 交付に関する条例

今まで実施要綱で実施してきた「までい子育てクーポン交付事業」について、新たに条例を制定して実施するためのものです。

### 飯舘村表彰条例の 一部改正

飯舘村が誕生した9月30日を「村民の日」としたことに合わせ、村表彰式の実施時期を5月から9月に変更すること、同条例中の「助役」を「副村長」に改める改正です。

### 飯舘村職員定数条例等 の一部改正

地方自治法の改正により「助役」が「副村長」に、「吏員」が「職員」に改められたことに伴い、関係する条例の一部を改正するものです。

### 財政状況の公表に関する 条例の一部改正

財政状況の公表の時期を、これまでの「4月及び1月」から「4月及び10月」に改め、併せて条文の一部を改正するものです。

### 廃棄物の処理及び清掃に 関する条例の一部改正

粗大一般廃棄物を定期的に入受れるための条文を追加するなどの改正です。

### 職員の給与に関する 条例の一部改正

職員給料の特別調整額、扶養手当額の変更と、給与の支給を口座振込みとする項目を追加する改正です。

### 敬老祝金給付条例の 一部改正

敬老祝金の給付対象者を、75歳以上5歳刻みとし、支給額を6000円から1万円に改める改正です。

### 飯舘村収入役事務兼掌 条例を廃止する条例

地方自治法の改正により、収入役が廃止され会計管理者を置くことに改められたので、その条例を廃止するものです。

## 追加議案

### 平成18年度 一般会計補正予算

既定予算に170万円を追加しました。主な内容は、参議院福島県選出議員補欠選挙費などです。

### 『早ね・早おき・朝 ごはん運動推進の村』 宣言

子どもたちの健全な成長のため、「早ね・早おき」



の基本的な生活習慣を身に  
つけ、「朝ごはん」を通し  
ての健康意識、家族のあり  
方を見直すきっかけとなる  
よう、村民挙げて『早ね・  
早おき・朝ごはん運動』を  
展開するため、この宣言の  
議決を求めるものです。

### 訴えの提起

19年度が最終年度となっ  
ている「県営ふるさと農道  
緊急整備事業飯館地区」に  
ついて、早急に用地の確保  
が必要であるため、計画  
路線上にある47人の共有地  
（相続人等304人）の道  
路用地部分を特定し、共有  
地から分割登記をするため  
提訴することについて、地  
方自治法の規定により議会  
の議決を求めるものです。

### 固定資産評価審査委員 会委員の選任

村固定資産評価審査委員  
会の委員として長谷川侑廣  
さん（伊丹沢）を選任する  
ことについて、議会の同意  
を求めるものです。

## 議員発議

### 飯館村議会会議規則の 一部改正

地方自治法の改正に伴  
い、規則の一部を改正する  
ものです。

### 飯館村議会委員会条例 の一部改正

機構改革により課名が変  
更されたことなどに伴い、  
条例の一部を改正するもの  
です。



## 村長村政報告

（紙面の都合で内容は  
一部省略してあります）

### 50周年記念要覧

昨年からの立村50周年記  
念事業の一環で進めてきた、  
「立村50周年記念要覧」を  
策定しまして、それぞれの  
家庭で、お正月にゆっくり  
読んでいただこうと、年末  
に全戸配付したところです。

この記念要覧は、大きな  
特長として、村の50年の歴  
史に親しみや愛着がもてる  
ようにつくり、その歴史を  
鑑み、さらに、第5次総合  
振興計画「までいライフ」  
を村の理念に据えて、未来  
の道しるべにすることを  
謳った要覧です。今後、村  
民の笑顔が絶えないよう  
に、村民と共に精進して参  
りたいと考えているところ  
です。

### 新春村民のつどい

恒例となりました「新春  
村民の集い」を1月14日に  
公民館を会場に開催しまし

た。今年は立村100年へ  
向けて、その折り返しの  
年です。当日出席されまし  
た約150人の方々と、1  
00周年に向け、新たなス  
タートとなる新年を祝った  
ところです。



▲飯館中生徒によるオープニング

席上、恒例の村民が選ぶ  
「村の10大ニュース」では、  
「立村50周年記念祭の開催」  
が、1321票でトップ  
ニュースに選ばれました。

2位は1182票で、「八  
木沢峠で地すべりや法面崩  
壊が発生し、県道が約1カ  
月間通行止めになったこ  
と」。3位は1122票で、



▲芸能を披露する宮内芸能保存会

## 税の収納状況

18年度村税の収納状況に  
ついては、ほぼ前年並みの  
収納率となっておりますが、  
滞納繰越分の収納率が伸び  
悩み、依然として厳しい状  
況にあることから、自主財  
源確保のため努力をしてい  
るところです。

## ごみ処理

大量消費生活のスタイル  
を見直し、資源循環を基本  
とした循環型社会の構築が  
求められているところです。  
平成18年度から紙類のリ  
サイクルと生ごみの水切り  
の徹底をお願いしているこ  
ろです。

今般、飯樋町地区に「生  
ごみ堆肥化ステーション」  
を設置し、やまゆり保育所  
をはじめとする公共施設・  
飯樋地区の公営住宅等人居  
者の方々・村内飲食店組合  
等、生ごみの大量排出者や  
自家処理が困難な方々を対  
象として、4月からの稼働  
に向けて準備中です。

### 飯館村防犯協会と飯館 村交通安全対策協議会 の組織改編

2月26日に総会を開催し、  
3月31日をもって両組織の  
解散を決定しました。

19年度からは、これらの  
組織を飯館村生活安全協議  
会（仮称）に一本化し、「防  
犯と交通安全さらには防災  
は家庭や地域から」の意識  
付けを進め、一体となった  
活動となるような組織づく  
りを図っていききたいと考  
えています。

## 集落営農

3月1日現在の進捗状況  
は、「集落ぐるみ型」が8  
地区、「集落ぐるみ型と個  
別担い手の混合型」が2地  
区、「個別担い手型」が1  
地区の合わせて11地区の組  
織が設立されました。今後  
は、設立した組織の営農並  
びに経営指導が課題となり  
ますので、JAの役割が重  
要になってくるものと考え  
ています。

### 農地・水・環境保全 向上対策

なお、残された9地区の  
中で、面積要件等で設立が  
困難な行政区も一部あり、  
今後「個別担い手」若しく  
は「特例措置」等で設立可  
能かどうかも含め、各地区  
と協議を重ねていきたいと  
考えています。

3月1日現在で9行政区  
に設立されており、3月末  
までには全行政区に資源保  
全会を設立し、村との協定  
締結を行うことになってい  
ます。

また、2月5日に20行政  
区の代表者による「いいた  
て農地・水・環境保全向上  
対策推進連絡協議会」の設  
立総会を開催し、相互の情  
報交換と連携を図っていく  
こととしました。

### 19年産米の配分目標 数量

村の生産目標数量は43  
25トで、前年度に比べ1  
74トの減。

### 19年度産地づくり 交付金

また、作付面積は910  
畝で前年度に比べ34畝の減  
となりました。数量減の主  
な要因は、15年度から17年  
度までの3年間における1  
等米比率の低下が大きく影  
響したものと考えます。

配分額は前年度に比べ  
25%減の8442万700  
0円となっています。1月  
30日に「飯館地域水田農業  
推進協議会」の臨時総会が  
開催され、使途については  
主に米に代わる作物として  
野菜、花卉を振興すること  
としています。特にブロッ  
コリー、リンドウ、トルコ  
ギキョウについては、引き  
続き積極的に支援し産地化  
を図っていきます。

### 米の新たな需給 システム

昨年まで行政による生産  
目標数量の配分を行なって  
きたものを、19年度からは  
JA等の米の集荷業者が行



▲19年度に改修予定のステーキハウス

## 産直施設

政側からの生産数量配分の  
情報提供に基づき、米の生  
産調整方針の作成者となり  
ます。したがって、各農家  
は米の生産調整方針作成  
者である米の集荷業者を選  
び、一定のルールのもとに  
作付け販売することになり  
ますので、過般の「飯館地  
域水田農業推進協議会臨時  
総会」において趣旨説明を  
行い、周知を図りました。

2月6日、いちばん館で  
改修工事の概要と管理運営  
に当たっての基本的な考え  
方について説明会を開催し  
ました。今回の説明会にお



集まりいただいたのは、昨年2月17日に開催した「産直施設運営検討会」に出席された方々です。改修工事が前回の補助事業の関係で国県等の協議が長引き、延び延びになっていたため今までの遅れた経過を含め、説明会を開催し理解を求めたところです。なお、改修工事が19年度になりますので、施設の基本的な管理運営方針さらには施設利用者との調整など、今年の秋に予定されているオープンに向け準備を進めていきたいと考えています。

## 企業立地支援事業

年明け早々に福島市のトモト電子工業(株)から、本村に立地したい旨のお話があり、飯樋町の空き工場を紹介したところ、早速改修し操業したいとのことでした。

また、改修に当たっては村の補助金を受けたいとの希望でしたので、改修計画書の提出をいただき、1月29日に開催されました企業

立地審議会で268万円の補助金決定の承認をいただきました。なお、同社はワイヤーハーネスという電線加工の分野において、国内では5、6位の販売高を持つ中堅企業とのことでした。本村に設置された工場は、2月20日に操業が開始され、3月1日現在、村内から女性15人の雇用を生んでいます。

これは国有林野の有効活用の一環で、森林環境教育や森林体験等の場として国有林を提供していただき、森林を通して青少年の人格育成や知識の習得を図るものです。2月16日、磐城森林管理署長との間で協定を締結し、「あいの沢」から白石に抜ける国有林約34㍏が利活用できることになりました。



▲2月20日に操業を開始したトモト電子工業(株)



▲協定を結ぶ菅野村長と山部署長

当面の活用としては、村内にある3つの小学校の児童を対象に、森林生態系の学習や林業体験教室、樹木観察学習会などを計画しています。

また、締結した区域内には大きな奇岩が点在しており、森林内の遊歩道が整備されれば一般の方にも楽しむことができるスポットになるものと期待しています。

## 公有林木の売り払い

12月20日、草野字七郎内ほか1カ所(約40㍏、材積5524m<sup>3</sup>、主に杉材)について、5社による指名競争入札を行い、合わせて1828万8000円で売却しました。当初予算では665万円の計上でしたが、約3倍の収入であり、予想を大幅に上回る財源の確保ができました。

## 草野小耐震診断

全国的に課題となっており、ます学校施設等の耐震化については、草野小学校の耐震診断を昨年実施したところですが、校舎・体育館とも構造耐震診断指標を上回るなど耐震性は高いとの結果が出たところであり、当面耐震のための改築の必要

はなくなったものと考えています。

しかし、建設から20数年が経過していることもあり、水道や暖房施設等のライフラインや、屋根の塗装等について、補修箇所や経費が年々増加し、計画的な設備改修が必要となっています。今後は、児童数の減少による空き教室の活用、特別教室への転用などの耐震以外での校舎のリニューアルを検討していきたいと考えています。

## 学童・預かり保育



▲飯樋小交流施設の一部を利用して行う学童・預かり保育「たんぼハウス」

いわゆる放課後等の児童・園児に対する保育施設である「つくしんぼハウス」

への新年度の入所希望の取りまとめをしたところ、定数を大幅に越える人数となり、入所を断らざるを得ない状況になりました。しかし、子どもを預けて働きたいという多くの保護者の要望もあり、飯樋小学校交流施設で開設することとし、今議会に開設のための備品購入予算などを提出しています。

## 成人式



▲新成人77人が出席した成人式

1月7日に恒例の成人式を執り行いました。新成人77人が出席し、社会人としての自覚を持つことを誓い、大人の仲間入りをしました。

今年の成人式では、美しい村の風景が映し出される中、新成人のご家族から届けられたメッセージを披露することなどにより、ふるさと飯館に育てられた事を再確認してくれたものと思います。



▲記念パーティーのようす

## わが家の10大ニュース

今年で7年目を迎え、216件の保管依頼がありました。

それぞれ家族で、家庭団らんの中から一人ひとりの1年間の出来事を出し合い「わが家の10大ニュース」にすることで、家族の絆を一層深め合い、また、家族史として後世に引き継がれるものと思います。

## 家庭教育支援総合推進事業

家庭教育学級、就学時子育て講座、思春期子育て講座及び父親の家庭教育参加を考える集いなど15講座を、幼稚園、学校、公民館を会場に開催してきました。延べ931人の参加をいただき、家庭教育やしつけの見直しを図るとともに、体験を通して親子の絆を深める良い機会となりました。

## 子育てサポート事業

「子育てサポーター」の自主活動グループが誕生し、子育て不安に悩む親への支援、学校行事や公民館行事、保健事業等での子どもを預かるサポート事業などを行っており、大変喜ばれています。今後ますますの活躍を期待するとともに、できるだけ支援をしていきたいと考えています。

## 青年交流事業

村内のNPO法人に委託



▲NPO法人が実施した青年交流事業

## ジュニアリーダー

中学生・高校生に将来の社会教育活動のリーダーとして活躍していただくために、ジュニアリーダー育成事業に取り組んできました。小学生を対象にした流しソーメン事業を自主計画・

実施したり、子ども会のクリスマス会やレクリエーションゲーム指導など、公民館事業等へも協力してくれました。

このような事業を継続することにより、地域への愛着心や地域づくりの担い手になっていただけるものと考えています。

## 総合型地域スポーツクラブ

いきいきクラブの事業として、今年度は高齢者の指導者が育成されました。

今後は婦人層の指導者の育成を図り、スポーツを通じた健康づくりに取り組んでいたできるよう、クラブの支援をしていきます。

また、体育協会、スポーツ少年団の加入をはかる事ができ、会員数699人に達しています。今後、多くの村民が体力の維持向上を図れる活動が出来るようクラブと相談をしながら進めていきます。